

平成30年度 京都市域地域医療構想調整会議（第1回Bブロック会議）

日 時：平成30年11月26日（月）14:00～16:00

場 所：立命館大学朱雀キャンパス多目的室

次 第

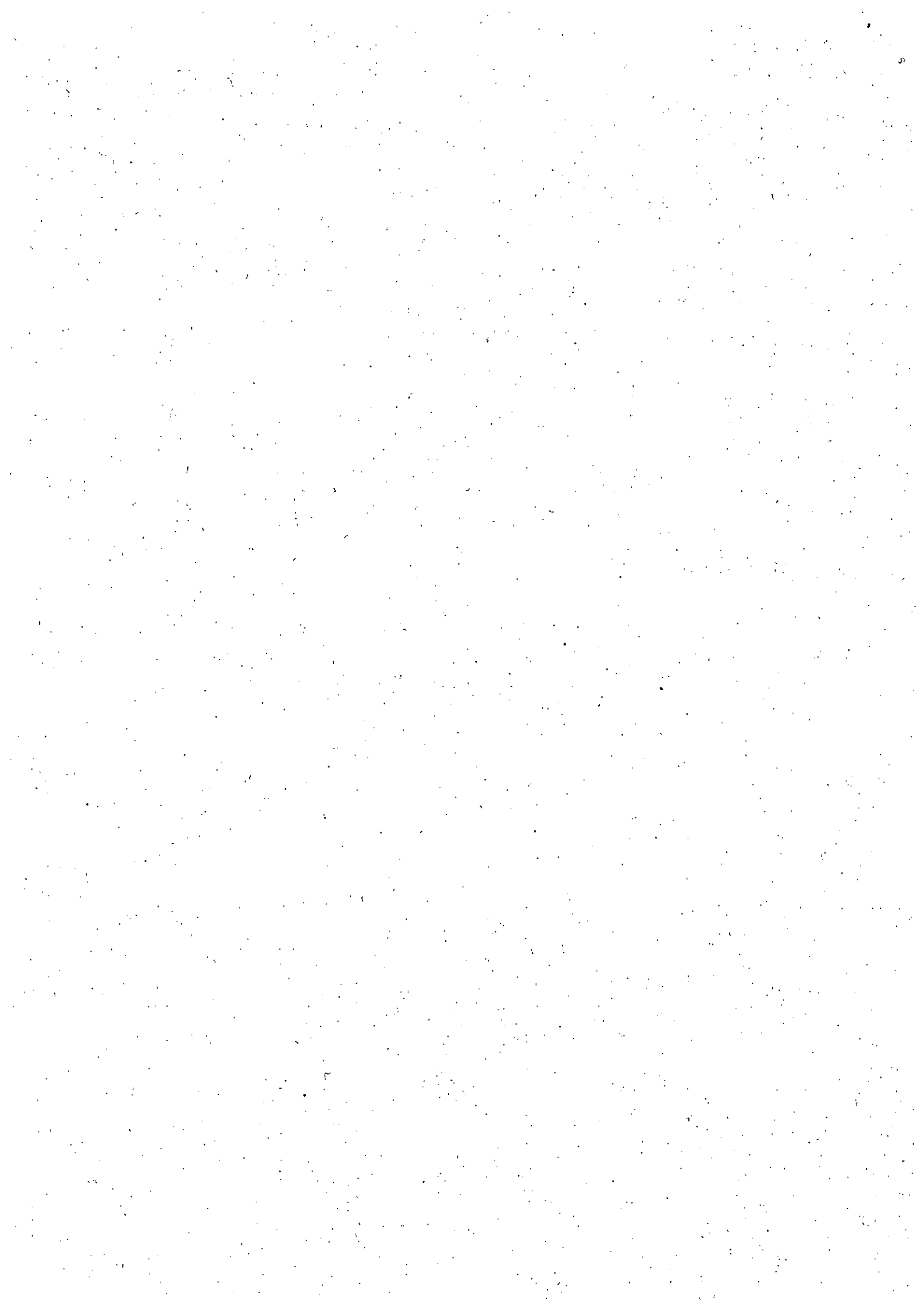
1 開 会

2 あいさつ

3 議事

- (1) 地域医療構想調整会議（ブロック会議）の趣旨について
- (2) 病床機能報告について
- (3) 各病院から「病院の役割と今後について」発表
- (4) 地域における各病院の役割について意見交換

4 閉会



【第1回】京都市ブロック部会出席者一覧(団体)

	団体名	役職名	就任者名
B ブ ロ ッ ク	京都府医師会	理 事	米 林 功 二 (座 長)
	右京医師会	-	平 杉 嘉 平 太
	西京医師会	会 長	福 本 和 生
	右京歯科医師会	-	高 寄 直 昭
	西京歯科医師会	-	柴 原 一 清
	京都府薬剤師会	理 事	神 林 純 二
	右京薬剤師会	会 長	野 村 真 洋
	西京薬剤師会	欠 席	
	京都府訪問看護ステーション協議会	-	團 野 一 美
	地域包括支援センター (介護保険・地域包括ケア・地域包括支援センター所管)	京 都 市 健 康 長 寿 企 画 課 担 当 課 長	伊 井 亜 弓
		京 都 市 介 護 ケ ア 推 進 課 課 長	田 中 超
	京都府介護支援専門員会	常 任 理 事	川 添 チ エ ミ
	在宅医療・介護支援センター(右京区)	-	平 杉 嘉 平 太
	在宅医療・介護支援センター(西京区)	センター担当医師	塚 本 忠 司
	京都市(医務担当)	医 務 衛 生 課 医 務 係 長	杉 山 利 香
京都府	医 療 課 課 長	井 尻 訓 生	



京都市ブロック部会出席者一覧

	No.	施設名	役職名	出席者名
右京	29	独立行政法人国立病院機構宇多野病院	院 長	梶 龍 児
	30	京都市立京北病院	医療政策監	由良 博
	31	一般財団法人仁風会嵯峨野病院	院 長	小松 建次
	32	西京病院	理事長・院長	松井 亮好
	33	一般財団法人 高雄病院	医事課 課長	林 幸且
	34	一般財団法人泉谷病院	院 長	泉谷 梓
	35	医療法人社団松仁会内田病院	地域連携課長	林 徹郎
	36	医療法人河端病院	理 事 長	河端 博也
	37	医療法人新生十全会 京都双岡病院	病 院 長	中西 克己
	38	社会医療法人太秦病院	欠 席	
西京	39	社会福祉法人京都社会事業財団 京都桂病院	院 長	若園 吉裕
	40	医療法人清仁会 洛西シミズ病院	病 院 長	石津 恒彦
	41	医療法人弘正会西京都病院	総務部長	松村 健史
	42	三菱京都病院	病 院 長	小野 晋司
	43	洛西ニュータウン病院	病 院 長	松室 明義
	44	医療法人清仁会 シミズ病院	院 長	吉田 享司
	45	医療法人倅生会身原病院	欠 席	
中京	47	公益社団法人京都保健会京都民医連中央病院	院 長	松原 為人

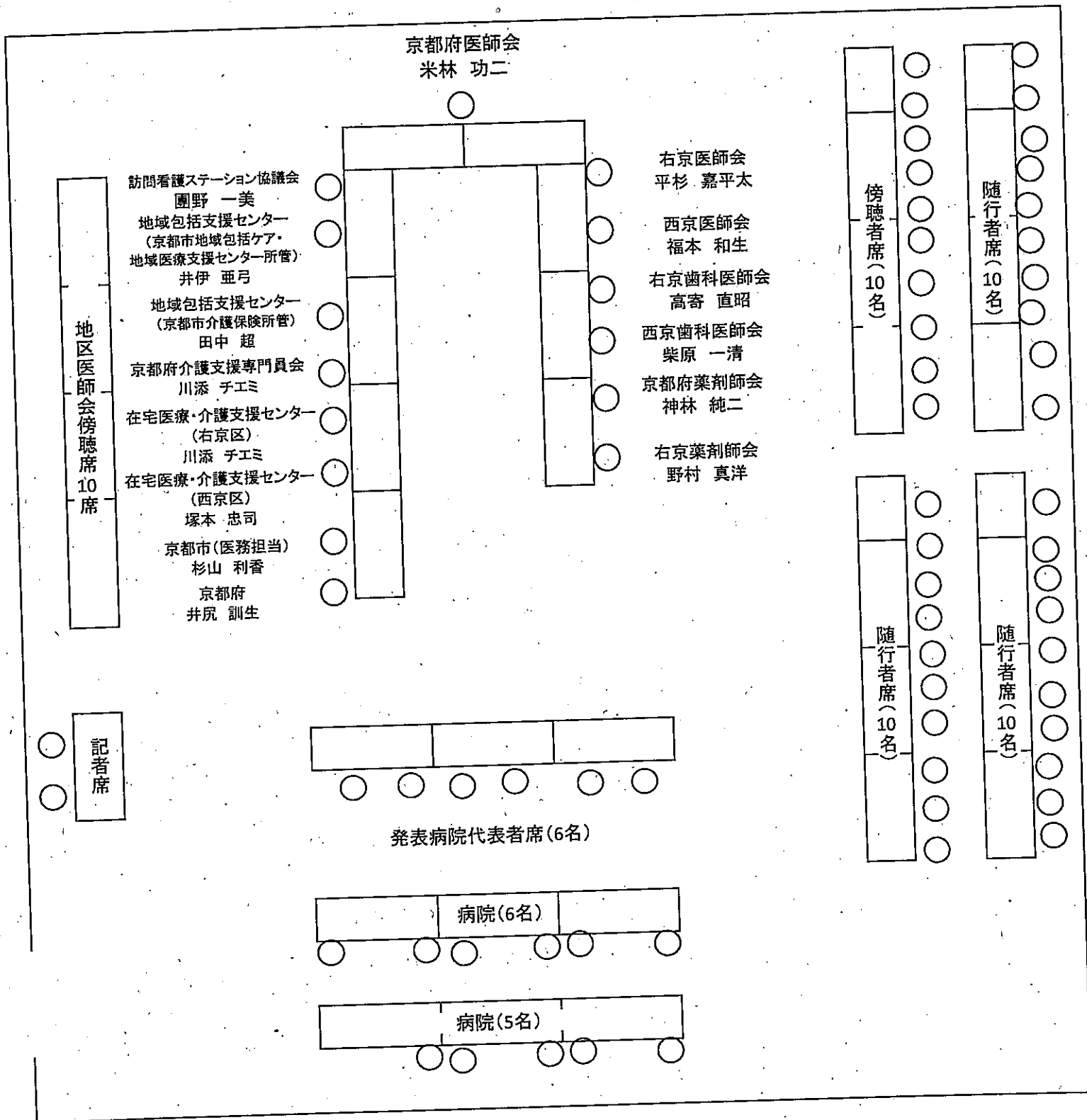


【Bブロック】第1回ブロック会議発表病院一覧

行政区	病院名
右京区	独立行政法人国立病院機構 宇多野病院
	京都市立京北病院
	一般財団法人仁風会 嵯峨野病院
	医療法人社団京健会 西京病院
西京区	京都桂病院
	医療法人清仁会 洛西シミズ病院



京都市域地域医療構想調整会議(Bブロック) 配席図





京都市域地域医療構想調整会議の進め方について

【目的】

平成 29 年 3 月には「京都府地域包括ケア構想」を、平成 30 年 3 月には地域包括ケア構想等を踏まえ具体的施策等を記載した「保健医療計画」を策定

今年度は、これら計画を踏まえ、各関係機関、団体等とより連携を図り、目標達成に向け取組を図る。

【調整会議の進め方】

京都市域を除く各地域医療構想調整会議においては、全病院等が会議等に参画し、意見交換を実施している。

一方、京都市内においては、対象施設が多いため、全病院等が一同に参集することが難しいことから、地域の実情を考慮したブロックに分け、より多くの病院等の参画が得られるよう進める。

概 要	備 考
<p>○ 「救急病院群輪番編成表」の 4 ブロックを参考に、全病院等参加の組織を立ち上げ議論を進める。</p> <p>○ 協議内容により全体会とブロック会議に分け議論を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体会⇒ブロック会議の状況把握、ブロックを越えた調整等 ・ブロック会議⇒疾病別医療需要の実状を踏まえた病院機能、在宅医療、介護サービスの連携等 	
(参考)	
区 分	対 象 数
病院数 (精神科単科を除く)	97 施設 (うち、在支病 : 15 施設)
診療所数	1,665 施設 (うち、在支診 : 205 施設)
訪問看護 S T 数	168 事業所
地区医師会数	13 地区



【Bブロック】第1回ブロック会議発表資料

行政区	病院名	ページ番号
右京区	独立行政法人国立病院機構 宇多野病院	1 ~ 4
	京都市立京北病院	5 ~ 7
	一般財団法人仁風会 嵯峨野病院	9 ~ 10
	医療法人社団京健会 西京病院	11 ~ 12
西京区	京都桂病院	13 ~ 15
	医療法人清仁会 洛西シミズ病院	17 ~ 18



病院の役割と今後について

【基本情報】

病院名	(独)国立病院機構 宇多野病院			
所在地	京都市右京区鳴滝音戸山町8			
許可病床数	380床 (一般病床、療養病床の合計)			
病床の種別 (非稼働病床)	一般 380床 (50床)	医療療養 床 (床)	介護療養 床 (床)	
主な診療科目 (上位3つ)	神経内科	整形外科	小児科	
病床機能	高度急性期 床	急性期 50床	回復期 55床	慢性期 275床
主な病院機能	○救急告示病院 ○京都府難病医療拠点病院			

例示

- ①周産期医療〇〇病院 (センター)
- ②救命救急センター (三次)
- ③救急告示病院
- ④地域災害拠点病院
- ⑤原子力災害拠点病院
- ⑥へき地医療拠点病院
- ⑦在宅支援を担う病院 (在宅療養支援病院、在宅療養後方支援病院)
- ⑧地域がん診療拠点病院
- ⑨脳卒中 (急性期)・(回復期)・(維持期) を担う病院
- ⑩急性心筋梗塞 (急性期)・(回復期) を担う病院
- ⑪難病医療協力病院
- ⑫エイズ拠点病院

【現状と今後について】

自施設の現状

○ 宇多野病院の特徴

- ・ 神経難病(小児含む)を中心に免疫性疾患、長寿医療にも重点を置きながら、専門的医療における先端的治療と質の高い広域医療を推進している。
 - ・ 高い医療レベルを維持推進するため、治療法・診断法の開発を中心とした臨床研究と臨床的エビデンスを創出し、治験を推進している。
 - ・ パーキンソン病について、最新治療、科学的診断、国際的標準治療などを導入し、パーキンソン病のみならず、その近縁疾患(レビー小体病など)及び運動異常症(ジストニアなど)の診療も行っている。
 - ・ 多発性硬化症について、難治例、長期例を中心に臨床研究の推進と先端的治療を行っている。
 - ・ 難治性てんかんについて、ビデオ・脳波モニタリングなどを用いて、焦点の同定や発作型の判定を行い、最適な治療方針を決めている。
 - ・ 筋ジストロフィー・筋疾患について、デュシェンヌ型筋ジストロフィーを始め、小児におけるてんかん、筋疾患、小児神経領域の神経筋疾患だけでなく、心身症、発達障害、遺伝相談などの専門医療を提供している。
 - ・ 変形性関節症などに対して人工関節置換術の新しい治療の取り組みを行っており、また大腿骨骨折等における回復期リハビリテーションも実施している。
 - ・ リウマチ性関節炎や全身性エリテマトーデス(SLE)など膠原病の最新の治療を提供している。
- 上記特徴や当院の人的資源を活かし、急性期病院や療養型病院ができない神経難病等を中心とした専門的医療を担うことが当院の役割であると考えている。また、臨床研究を通じて医療の進歩・質の向上に貢献していきたい。

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 京都府下全域で不足が見込まれている回復期医療については、平成28年度に回復期リハビリテーション病棟を開棟しており、大腿骨頸部骨折や脳卒中患者のリハビリテーション機能を担っていく。 ○ 平成27年度に訪問看護ステーションを開設しており、今後益々需要が増加する在宅医療に対応すべく、機能強化を図っていく。 <p>以上のように、急性期から回復期、慢性期、在宅まで幅広く対応し、当院の病床機能を最大限に活かして、地域医療構想に適應していく。</p>
<p>自施設の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 医師不足 <ul style="list-style-type: none"> ・ベテラン医師の退職後に後補充ができず、一部の診療機能が低下している。新専門医制度の内科系基幹病院として医師確保に努める。また1人診療科の複数化及び消化器内科等非常勤医師の常勤化が急務。 ○ 脳卒中の回復期リハビリ患者の診療 <ul style="list-style-type: none"> ・回復期リハビリテーション病棟において、脳卒中患者の紹介が少ないことからST等マンパワーが十分に発揮できていない。PRを更に強化することで対象患者から選ばれるよう努力する。
<p>地域において今後担う役割</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 筋ジストロフィーを含む神経難病を中心とした専門的医療を実施しており、京都府難病医療拠点病院として二次医療圏のみならず、広範囲で重要な役割を担っていることから、今後もこの機能を維持していくことで対象患者のQOL向上に努める。 ○ 京都府下全域で回復期の需要が増加してくる見込みであるため、対象患者の受入が進むよう、当院の回復期リハビリテーション病棟の機能向上を図っていく。 ○ 在宅医療の必要量も増加していくことから、訪問看護ステーションについても、診療機能強化を図る必要があると考えている。 ○ 京都市西北部の地域基幹総合医療センターとして、地域に密着した急性期医療についても継続してその役割を果たしていく。

今後の展望	<ul style="list-style-type: none">○ 当院には慢性期病床が多く、構想では過剰となる推計値が示されているが、当院の慢性期病床は上記のとおり神経難病を中心とした専門的医療が必要な患者の病床であり、在宅への移行は困難であることから、今後も必要な病床であると考えている。○ 回復期病床について、今後の地域需要によっては慢性期からの更なる転換も検討する。○ 急性期病床については、現在1個病棟のみであり、京都市西北部の総合医療センターとしての機能や、増加の見込まれる大腿骨骨折の手術適用患者のため、1個病棟は必要だと考えている。
-------	--

病院の役割と今後について

【基本情報】

病院名	京都市立京北病院			
所在地	京都市右京区京北下中町鳥谷3番地			
許可病床数	38床（一般病床，療養病床の合計）			
病床の種別 （非稼働病床）	一般 38床 (○床)	医療療養 ○床 (○床)	介護療養 ○床 (○床)	
主な診療科目 （上位3つ）	内科	外科	整形外科	
病床機能	高度急性期 ○床	急性期 28床	回復期 10床	慢性期 ○床
主な病院機能	③ 救急告示病院 ⑥ へき地医療拠点病院 ⑦ 在宅療養支援病院			

例示

- ① 周産期医療○○病院（センター）
- ② 救命救急センター（三次）
- ③ 救急告示病院
- ④ 地域災害拠点病院
- ⑤ 原子力災害拠点病院
- ⑥ へき地医療拠点病院
- ⑦ 在宅支援を担う病院（在宅療養支援病院，在宅療養後方支援病院）
- ⑧ 地域がん診療拠点病院
- ⑨ 脳卒中（急性期）・（回復期）・（維持期）を担う病院
- ⑩ 急性心筋梗塞（急性期）・（回復期）を担う病院
- ⑪ 難病医療協力病院
- ⑫ エイズ拠点病院

【現状と今後について】

<p>自施設の現状</p>	<p>○地域住民が、住み慣れたまちで安心して生活していくことを支援するため、可能な限り京北地域での医療を京北病院で完結することを目指しています。急性期医療から、サブアキュート・ポストアキュート、在宅療養・施設療養までを、切れ目なく当院が提供するために、平成29年2月から、一般病床38床のうち10床をサブアキュート、ポストアキュート医療のため、回復期病床に相当する地域包括ケア病床に転換しました。</p> <p>また、在宅療養を支える取り組みとして、在宅療養支援病院の施設認定を受け、在宅療養あんしん病院にも登録しています。</p> <p>○入院医療(急性期病床28床、地域包括ケア病床10床)を基幹として、病院に併設する介護療養型老人保健施設(29床)、通所リハビリテーション(デイケア)、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所を運営することにより、京北地域における地域包括ケアの中核機能を担っています。</p> <p>○平成23年度からの京都市立病院と1法人2病院の形での独立行政法人化、一体運営により、高度急性期治療を要する重症患者の転送をはじめとして各種専門外来および京北病院で施行できない検査(MRI、PETなど)の連携を進めています。</p>
<p>自施設の課題</p>	<p>○高齢化率42%で人口減少も進行する中で、5000名弱の京北地域住民に対する適切な地域包括ケアの提供を継続するにあたり、病棟および外来診療棟の老朽化など、ハード面に課題が山積しています。</p> <p>○運転免許証の返納などで通院困難となる住民は増加する見込みであり、訪問診療、訪問看護の需要も増加が予測されます。これに対応できる医師、看護師の確保も大きな課題です。</p>
<p>地域において今後担う役割</p>	<p>○京北病院は、高齢化が急速に進み、地理的にも山間へき地にある京北地域においては唯一の救急・入院対応医療機関であり、地域の医療ニーズを踏まえた適切な入院・外来診療体制を確保していくことにより、地域住民が住み慣れた地域で安心して暮らしていける環境を作っていきます。京北地域での急性期医療から回復期、在宅医療、予防医療、福祉部門までを包括的に対応する医療機関として、より充実した対応を目指し、地域包括支援センターをはじめとして、京北地域内の様々な組織や介護施設とのさらなる連携強化を進めていきます。</p>

<p>今後の展望</p>	<p>○急性期、サブアキュート・ポストアキュートの病床機能の明確化を進め、また京北地域の行政・福祉機関との関連を強化して、より適切で迅速な対応をもって、京北地域の住民が、住み慣れた地域で生涯を安心して生活できる環境整備に取り組みたいと思います。</p> <p>○通院困難な方を対象として、京北地域を巡る通院車を毎日2便運行して来院いただき、受診後は各自宅まで送迎するといった、地域住民の交通手段の確保に努めています。また、京都市立病院への受診についても、週3回の往復便を設けて対応しており、入院についても、京都市立病院の後送病院としての機能を果たすように連携をさらに強化していきます。今後、さらに需要が増すようであれば、訪問診療、訪問看護のさらなる充実を含めて、柔軟に対応していく予定です。</p>
--------------	---

病院の役割と今後について

【基本情報】

病院名	一般財団法人仁風会 嵯峨野病院			
所在地	京都市右京区鳴滝宇多野谷9番地			
許可病床数	180床（一般病床、療養病床の合計）			
病床の種別 （非稼働病床）	一般 0床 (0床)	医療療養 60床 (0床)	介護療養 120床 (0床)	
主な診療科目 （上位3つ）	内科		呼吸器内科	
病床機能	高度急性期 0床	急性期 0床	回復期 0床	慢性期 180床
主な病院機能	慢性期医療を担う病院			

例示

- ①周産期医療〇〇病院（センター）
- ②救命救急センター（三次）
- ③救急告示病院
- ④地域災害拠点病院
- ⑤原子力災害拠点病院
- ⑥へき地医療拠点病院
- ⑦在宅支援を担う病院（在宅療養支援病院、在宅療養後方支援病院）
- ⑧地域がん診療拠点病院
- ⑨脳卒中（急性期）・（回復期）・（維持期）を担う病院
- ⑩急性心筋梗塞（急性期）・（回復期）を担う病院
- ⑪難病医療協力病院
- ⑫エイズ拠点病院

【現状と今後について】

<p>自施設の現状</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○慢性期において、医療や介護の必要性が高い方を積極的に受け入れている ○栄養サポートチーム・口腔ケア・リハビリテーションなど日常生活に必要な機能の維持・改善・機能低下の予防に取り組んでいる
<p>自施設の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○地区医師会との連携を強化する ○退院支援の強化に取り組む ○在宅療養の支援を強化する
<p>地域において今後担う役割</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○慢性期医療から在宅介護までの良質は医療の提供に努め、退院後の支援も担っていく ○三療法士による訪問リハビリの充実 ○管理栄養士・歯科衛生士による在宅療養の支援強化 ○アドバンスケアプランに基づく終末期医療への対応
<p>今後の展望</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○介護療養病棟の介護医療院への転換を計り、地域医療における慢性期の医療・介護のニーズに応えていく

病院の役割と今後について

【基本情報】

病院名	医療法人社団京健会西京病院			
所在地	京都市右京区西院北矢掛町 39 番地 1			
許可病床数	150 床（一般病床、療養病床の合計）			
病床の種別 （非稼働病床）	一般 50 床 (0 床)	医療療養 50 床 (0 床)	介護療養 50 床 (0 床)	
主な診療科目 （上位 3 つ）	内科	脳神経外科	呼吸器内科	
病床機能	高度急性期 1 床	急性期 34 床	回復期 16 床	慢性期 100 床
主な病院機能	○急性期から亜急性期、慢性期医療を担う病院 ○在宅療養を支援する病院 ○救急告示病院			

例示

- ①周産期医療〇〇病院（センター）
- ②救命救急センター（三次）
- ③救急告示病院
- ④地域災害拠点病院
- ⑤原子力災害拠点病院
- ⑥へき地医療拠点病院
- ⑦在宅支援を担う病院（在宅療養支援病院、在宅療養後方支援病院）
- ⑧地域がん診療拠点病院
- ⑨脳卒中（急性期）・（回復期）・（維持期）を担う病院
- ⑩急性心筋梗塞（急性期）・（回復期）を担う病院
- ⑪難病医療協力病院
- ⑫エイズ拠点病院

【現状と今後について】

<p>自施設の現状</p>	<p>○救急外来、一般外来、専門外来で急病、外傷などに対応するとともに、慢性期疾患、生活習慣病などの治療、健康管理等を行っている。</p> <p>○一般病床、地域包括ケア病床では高齢者の急性期、亜急性期を中心に受け入れ、在宅への復帰を目指した治療を行っている。在宅復帰が困難な方は、医療療養病棟、介護療養病棟で治療、療養を継続している。</p> <p>○在宅療養あんしん病院として、地域の在宅医療に対する支援、サポートを積極的に行っている。</p>
<p>自施設の課題</p>	<p>○外科系、内科系医師それぞれが総合診療の意識を持ち、各専門職とのチーム医療を構築し、幅広い病態の患者の受け入れ、適切な医療を提供していく。必要な場合は、高次の医療機関と速やかに連携できるよう努める。</p> <p>○全職員の医療安全意識を高め、良好で安心できる療養環境を整備する。このために必要な教育、研修を積極的実践する。</p>
<p>地域において今後担う役割</p>	<p>○地域医療連携の中での当院の役割を明確にし、地域のかかりつけ医、基幹病院、介護施設、在宅系サービス機関などとの連携を密にする。</p> <p>○在宅医療へのサポートをさらに強化するため、マンパワーが不足している在宅の現場での協力関係の構築が今後必要となると考え、自施設からも訪問看護や訪問診療を実施することを検討している。</p>
<p>今後の展望</p>	<p>○良好で安全な療養環境を整備し、良質で心のこもった医療、看護、介護を提供し、患者と患者家族の満足度の向上を図る。</p> <p>○在宅療養支援については、地域医療連携を強化し、引き続き積極的に行っていく。</p>

病院の役割と今後について

【基本情報】

病院名	京都桂病院			
所在地	京都市西京区山田平尾町 17 番地			
許可病床数	585 床（一般病床、療養病床の合計）			
病床の種別 （非稼働病床）	一般 525 床 結核（60 床）	医療療養 0 床 （0 床）	介護療養 0 床 （0 床）	
主な診療科目 （上位 3 つ）	心臓血管内科・外科	消化器内科・外科	呼吸器内科・外科 （総合病院であり各科）	
病床機能	高度急性期 385 床	急性期 140 床	回復期 0 床	慢性期 0 床
主な病院機能	<ul style="list-style-type: none"> ① 救急告示病院 ② 地域医療支援病院 ③ 地域がん診療拠点病院 ④ 臨床研修指定病院 ⑤ 外国人医師臨床修練指定病院（呼吸器科・循環器科） ⑥ がんゲノム医療連携病院 ⑦ 地域周産期母子医療センター ⑧ 無料低額診療施設 ⑨ 認知症初期集中支援モデル事業施設 ⑩ 脳卒中（急性期）を担う病院 ⑪ 急性心筋梗塞（急性期）を担う病院 ⑫ ロボット支援手術を担う病院 ⑬ 高精度の放射線治療機器による治療を行う病院 ⑭ 移植（造血幹細胞移植・腎移植）を担う病院 			

【現状と今後について】

<p>自施設の現状</p>	<p>京都市西部における地域支援病院であり地域における高度急性期・急性期の病院としてその役割を担っていると考えている。悪性新生物に対しては地域がん診療連携拠点病院、がんゲノム医療連携病院に指定されている。また呼吸器系・消化器系・循環器系の疾患に対して呼吸器センター・消化器センター・心臓血管センターにて高度な医療を提供できる体制を整え、さらに昨年より脳卒中センターを開設し最新の血管内治療を行えるよう、脳神経疾患の対応力を向上させた。また造血幹細胞移植を多く行い腎移植にも対応する。小児科・産婦人科・糖尿病内分泌内科、精神科をはじめその他の科も質の高い医療を提供できる総合病院である。地域包括ケアシステム構築のため地域連携にも力を入れており紹介率 63.1%、逆紹介率 148.7%。また地域に対する救急の充実も必要と考え、3年前より救急科を構築し、年間救急車受け入れ台数も 3500 台に増加した。</p>
<p>自施設の課題</p>	<p>悪性新生物に対しては、高度な質の高い医療の提供を考えており、5 疾病・5 事業を支える各科の充実もさらに図りたいと考える。地域において 2025 年に向けて最も増加する脳血管疾患に対し、脳卒中センターをさらに充実させてゆく予定。また建築後時間を経過した病棟の入院環境の向上に向け新棟建築を開始している。地域から信頼される救急もさらに充実させる予定。</p>
<p>地域において今後担う役割</p>	<p>京都西部の中心的な急性期・高度急性期を担う総合病院として地域の医療に貢献したいと考える。悪性新生物に対しては既に整備した侵襲性の少ない内視鏡手術・ロボット支援手術（ダ・ヴィンチ）や高精度の放射線治療機器による治療を継続して行い、がんゲノム医療連携病院として高度ながん医療を提供してゆく。また地域や院内でもニーズが高い緩和ケア病棟 20 床を新棟内に建築する予定。4 年後に救急関連病棟も建築し救急機能の充実を図り、高齢化社会に対応して整形外科、耳鼻科、眼科、形成外科の充実や歯科・口腔外科再開についても考慮してゆく。現在行っている訪問看護ステーションや西京医師会と協同で行っている認知症モデル事業も継続する。少子化社会ではあるが、小児科・産婦人科についても地域の中核として責任を果たしてゆく。また地域において診療所との連携は勿論のこと、機能の異なる回復期や地域包括ケアの病床を持つ病院との連携をさらに進めてゆく。地域住民に対して健康や疾患の啓蒙活動や講演も精力的に継続して行う。</p>

今後の展望	<p>本院の立地および病床数を考え、地域において高度急性期・急性期の医療を中心的に積極的に進める役割があると考え。呼吸器・消化器・心臓血管・脳卒中の各センターが最先端の治療を提供し続ける。また昨年度より機能強化のため内科系の病棟を集約した新棟の建築を開始し2年後に完成する。新棟内には緩和ケア病棟も新設する。なお緩和ケア病棟の建築にあたり、現在の一般病床525床から緩和ケア20床を差し引いた残りの505床で病棟運営を行なうとなると、救急患者の受入病床確保が非常に困難になる事態が予想されるため、同一法人である西陣病院から一般病床20床を本院に移動させることを検討している。地域を支援するための救急にはさらに力を入れる予定で、現在年間救急車の搬入件数は3,500台だが、2年後にはERの強化を開始し、4年後にはICU,SCU,HCUを含んだ新棟を建築する予定。これらにより高度救命を含め救急の機能強化を行いさらに高度急性期・急性期機能を充実させ地域に貢献したいと考えている。</p>
-------	---

病院の役割と今後について

【基本情報】

病院名	医療法人清仁会洛西シミズ病院			
所在地	京都市西京区大枝沓掛町13-107			
許可病床数	211床（一般病床、療養病床の合計）			
病床の種別 （非稼働病床）	一般 211床 （0床）	医療療養 一床 （一床）	介護療養 一床 （一床）	
主な診療科目 （上位3つ）	整形外科	リハビリテーション科	脳神経外科	
病床機能	高度急性期 一床	急性期 80床	回復期 131床	慢性期 一床
主な病院機能	救急告示病院 回復期リハビリテーション病棟を有する医療機関 在宅療養あんしん病院 脳卒中（回復期）・（維持期）を担う病院			

例示

- ①周産期医療〇〇病院（センター）
- ②救命救急センター（三次）
- ③救急告示病院
- ④地域災害拠点病院
- ⑤原子力災害拠点病院
- ⑥へき地医療拠点病院
- ⑦在宅支援を担う病院（在宅療養支援病院、在宅療養後方支援病院）
- ⑧地域がん診療拠点病院
- ⑨脳卒中（急性期）・（回復期）・（維持期）を担う病院
- ⑩急性心筋梗塞（急性期）・（回復期）を担う病院
- ⑪難病医療協力病院
- ⑫エイズ拠点病院

【現状と今後について】

<p>自施設の現状</p>	<p>当院は救急告示病院（二次）として急性期医療に取り組んでおり、中でも整形外科治療に重点を置き、脊椎や脊髄、膝、股、肩、足、手など部位ごとに専門医が常勤し、緊急手術にも対応しています。平成28年4月には回復期リハビリテーション病棟を100床に増設し、ロボットリハビリテーション等先端的なリハビリテーション機器を導入して在宅復帰に向けてリハビリテーションを365日提供しています。また、転移性脳腫瘍などに有効なガンマナイフによる治療では、京都府内はもとより他府県の医療機関からも治療の要請を受けており、脳疾患の急性期を担う病院としての役割も果たしております。</p> <p>また、救急救命士・看護師・リハビリテーション従事者など医療従事者の実習施設としても積極的に協力させて頂いております。</p>
<p>自施設の課題</p>	<p>救急告示病院（二次）として引続き地域医療に貢献し、急性期から回復期、維持期と総合的なリハビリテーションの提供に努め、地域の診療所や病院、福祉・介護サービス事業者とも連携をなお一層強化し、地域包括ケアシステムの実現に向けて当院の担う役割を明確にしていきたい。</p>
<p>地域において今後担う役割</p>	<p>救急告示病院として引続き地域医療に貢献するとともに、患者さんの望む暮らしの実現に向けて急性期から回復期、維持期と総合的なリハビリテーションの提供に努めるとともに、在宅療養中の高齢者が体調を崩し、在宅での対応が困難となる前に、スムーズに病院に入院することで、病状の悪化やADLの低下を出来るだけ防ぐことが出来るように在宅療養あんしん病院としての役割を担い、地域包括ケアシステムの実現に向けて、その役割を果たしてまいります。また、転移性脳腫瘍などに有効なガンマナイフによる治療においても脳疾患急性期医療機関としての社会的役割や救急救命士・看護師・リハビリテーション従事者など医療従事者の実習施設としての役割も引続き担当してまいります。</p>
<p>今後の展望</p>	<p>当院の地域医療連携室を拠点として近隣の診療所・病院の先生方や福祉・介護事業者と患者様を中心とした連携を一層強化し、この地域の実情に合った地域包括ケアシステムの実現に向けて取り組んでまいります。</p>